

夢の十一面観音像 (鳥井町)

暖かい春の日差しを浴びながら、春日神社の境内で五、六人の、おじいさん、おばあさんがお話をしていました。

「境内の中は、随分変わって美しくなったわ。」

「ここにお観音堂があったんにやけど。」

「そう、そう、お堂だけで中はカラッポ。」

茂雄おじいさんが、親からの口伝えだかと言っ

て、観音様の由来を語られました。

三代くらい前のこと、大地主であった茂左衛門

おじいさんの眠っている枕元が急に、ピカピカ

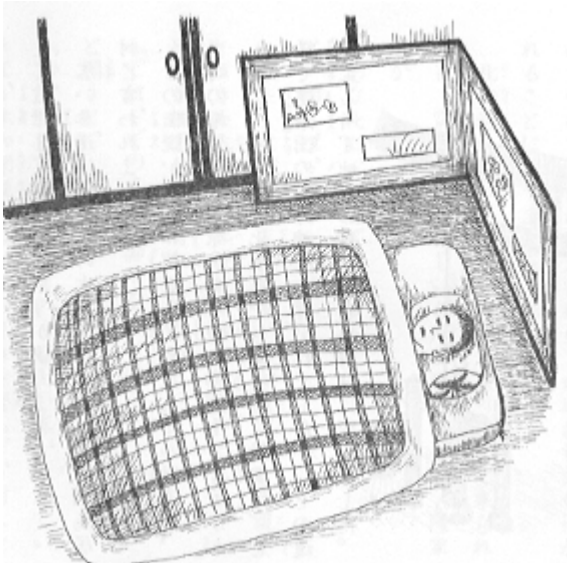
金色に光り、

「大変な雨じゃの。泥の中にいるので苦しい、助

けてほしい。」

と、いう声が聞こえました、パツと目を覚ました

おじいさんは、





「あ、もつたいない夢、今のお声は観音様だ。」
と、飛び起きました。雨もやみ明るくなるのを待
つて、下男（お手伝いさん）を連れて夢で見た河
原へ急ぎました。顔や手足、体中を泥だらけにし
て

「観音様はどこじゃいの、どこじゃいの。」
と探していますと、ピカリ、ピカリと光る所が見
えました。

「だんな様、あそこ。」

「おお、あそこだ、あそこだ。」

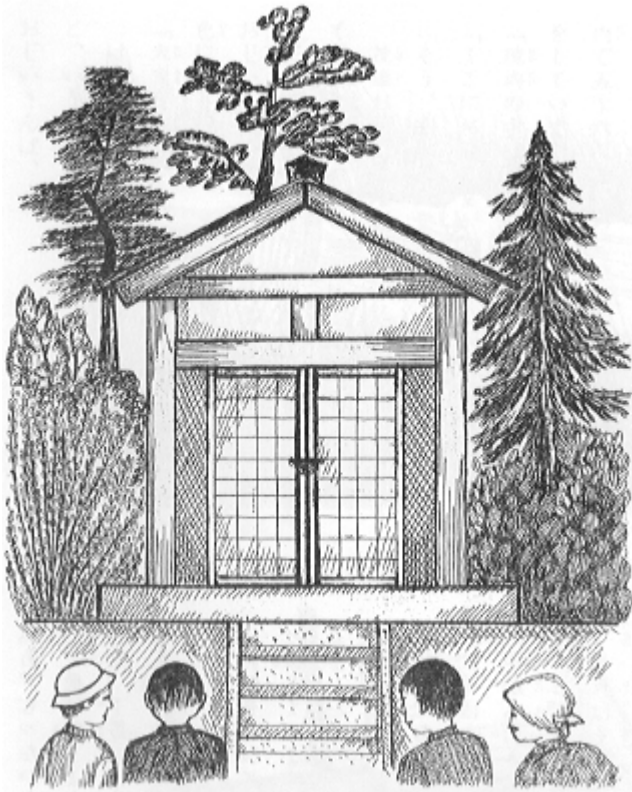
と二人は大喜びで、重い仏像をやつとの思いで泥
の中から引き上げて持ち帰り、水できれいに洗っ
て、仏間に安置しました。

それはそれは、立派な十一面観音様です。等身
大の木彫仏で金色にピカピカ光っています。

しばらくは、家の中でお祭りをしていましたが、
家に置くのは勿体ないと思い、屋敷の西南の角に、
二間に三間のお堂を建て、そこに安置し大切にお

守りをしていました。

その後、茂左衛門さんの長男が、一八六四年
(元治元年)に江戸(東京)へ行くことになり、



お観音様のお守りができなくなつたので、お観音様を神社へ安置すれば、氏子の方々にお守りしてもらえるだろうと考え、お堂を神社の境内の東側の空地に移して、安置しました。

鳥井村の人々は、

「お観音様。お観音様。」

と言つて神社と同様に、通るたびに頭を下げて拝

み大事にしていました。

明治四年、神仏分離令

(神様と仏様を同じ場所でお祭りすることを禁じ

られた)が出されたので有定の元庄屋(昔、村の

政治を扱った人)の藤枝浅右衛門さんが、鳥井か

ら有定へ持ち帰つたので

す。と茂雄おじいさんはお話になりました。

現在、有定町でお観音様のお守りをしておられる福田誠市さんは、

「十一面観音像は、養老元年（七百十七年）に泰澄大師が作られたと言われてきましたが、昭和五十四年に慶応大学の西川新次先生が調査にこられて、おなかの中に巻物らしい物があり、この仏像は、十世紀（平安時代）の作ではないかと推定されました、国宝級で文化財に匹敵すると高い評価をして下さいました。」

と話されました。

お観音様は、傷みも少なく美しいお姿で、今も、有定町の春日神社のお堂の真ん中にお祭りしてあります。

鳥井町に残ったお堂は、その後、社務所として使用され、後には物置となりました。

昭和六十二年、新しい社務所ができたのでお堂は取り壊されました。その跡へ、昭和五十四年に

春日神社が国の重要文化財に指定された記念碑が建っています。

